



Daiichi-Sankyo

Ranbaxy Laboratories Limited
株式取得について



2008年6月12日

代表取締役社長

庄田 隆

第一三共株式会社

複眼経営

| | イノベーター | ロングセラー |
|-----|--|---|
| 先進国 |  <p>Daiichi-Sankyo</p> | |
| 新興国 | |  <p>RANBAXY LABORATORIES LIMITED</p> |

アジェンダ

1. 本件の意義
2. Ranbaxyの概要
3. 財務面への影響及び取引ストラクチャー
4. まとめ

Global Pharma Innovatorの実現に向けて

■ 2015年ビジョン

- 第一三共グループは、グローバル創薬型企业 (Global Pharma Innovator) の実現をビジョンに掲げ、2015年には以下の項目を全て達成している状態を目指す
 - 世界の主要拠点において、医薬品に集中した事業を展開
 - 売上高1兆5,000億円
 - 営業利益率25%以上
 - 海外売上高比率60%以上

■ 第1期中期経営計画(2007年度～2009年度)

- 経営統合によるシナジー効果を早期に創出し、新薬創出力の強化、成長に向けた事業基盤の拡充等を実施する
- 2009年度
 - 売上高9,600億円
 - 営業利益2,400億円(営業利益率25%)

グローバル医薬品市場の変化

- 先進国市場: ブロックバスターの特許切れ、医療経済性の重視
- 新興国市場: 高い経済成長を背景とする、より良い医療を求める動き

| | 特許で保護された製品 | 特許が満了した製品 |
|--|--|--|
| 先進国市場 (現在の市場サイズ大)  低成長 | 当社の主力ビジネス 特徴: ブロックバスターモデル、高収益、成長鈍化 機会: 抗体医薬、テーラーメイド医薬 | 特徴: 低価格、高成長 機会: ブロックバスターの特許切れ、医療経済性、バイオシミラー |
| 新興国市場 (現在の市場サイズ小)  高成長 | 特徴: 高成長 機会: 知的財産の保護拡大、経済成長、人口増加 | 特徴: 低価格、高成長、数量は大きい、 機会: 経済成長、人口増加 |

高成長を続ける新興国市場

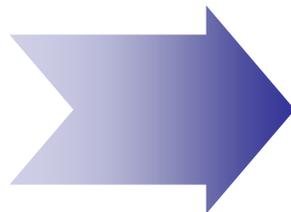
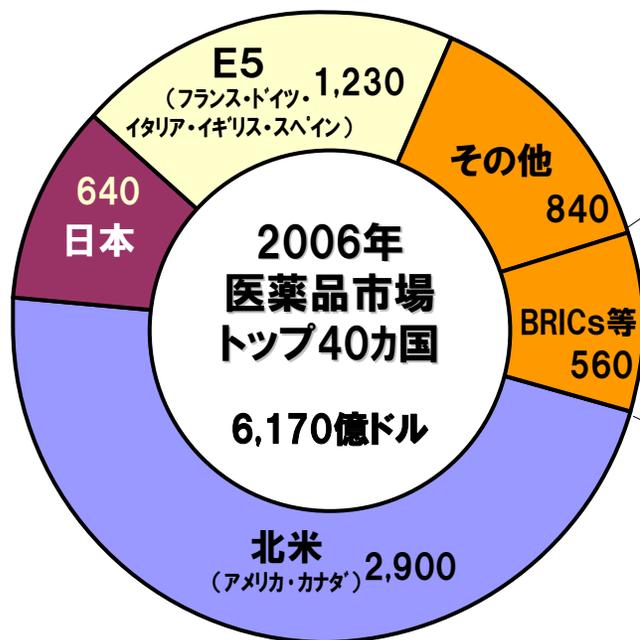
■ 新興国市場は過去5年間、2ケタ成長を続けている

| 国名 | 医薬品市場(十億ドル) | | CAGR (%, 02-07) |
|---------|-------------|-------|--------------------|
| | 2007年 | 2002年 | |
| 中国 | 14.2 | 6.1 | 18.4 |
| ブラジル | 10.3 | 5.1 | 15.4 |
| トルコ | 9.4 | 3.4 | 22.7 |
| メキシコ | 8.7 | 8.0 | 1.7 |
| インド | 7.4 | 4.6 | 10.1 |
| ポーランド | 5.8 | 3.0 | 14.3 |
| ロシア | 5.5 | 1.5 | 28.8 |
| ベネズエラ | 3.3 | 1.5 | 17.1 |
| アルゼンチン | 2.7 | 1.3 | 15.3 |
| ハンガリー | 2.7 | 1.2 | 17.3 |
| ルーマニア | 2.4 | 0.6 | 30.3 |
| インドネシア | 2.3 | 1.4 | 11.1 |
| 南アフリカ | 2.2 | 0.9 | 18.3 |
| 上位13ヶ国計 | 76.9 | 38.6 | 14.8 |

* 赤字は第一三共グループ未進出国を示す

新興国市場の高い将来性

- BRICs*+メキシコ、トルコの医薬品市場は560億ドル(2006年)から2030年には約3,300-4,200億ドル(CAGR:7.7-8.8%)に拡大する可能性がある。
(2006年時点の[北米+日本]の市場規模に相当)



**3,300-
4,200**
(億ドル)

2030年 医薬品市場(予測)
(単位:億ドル)



*BRICs: ブラジル、ロシア、インド、中国

本件実施の意義

- 複眼経営により永続的な成長を実現
- 新興国市場におけるプレゼンスを獲得し、第一三共グループのグローバルリーチを飛躍的に拡大
- 効率的なバリューチェーンを実現し、革新的医薬品の創出を加速

複眼経営

- 先進国市場におけるハイリスク／ハイリターンな従来型ビジネスに新たな視点を加えた複眼経営によりあらゆる市場の変化に対応する。
 - 先進国市場＋新興国市場
 - イノベーター＋ロングセラー
- 事業リスクの分散により、永続的な成長を実現する。

| | イノベーター | ロングセラー |
|-------|---|--|
| 先進国市場 |  <p>Daiichi-Sankyo</p> |  <p>RANBAXY LABORATORIES LIMITED</p> |
| 新興国市場 | | |

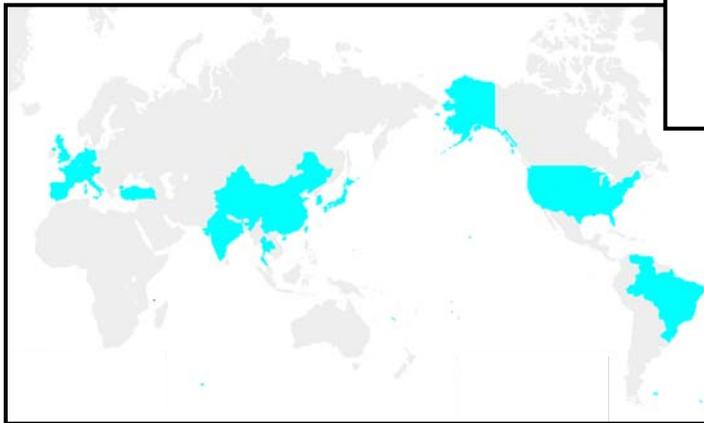
グローバルリーチの拡大

■ 新興国市場におけるプレゼンスの獲得

56ヶ国に拠点



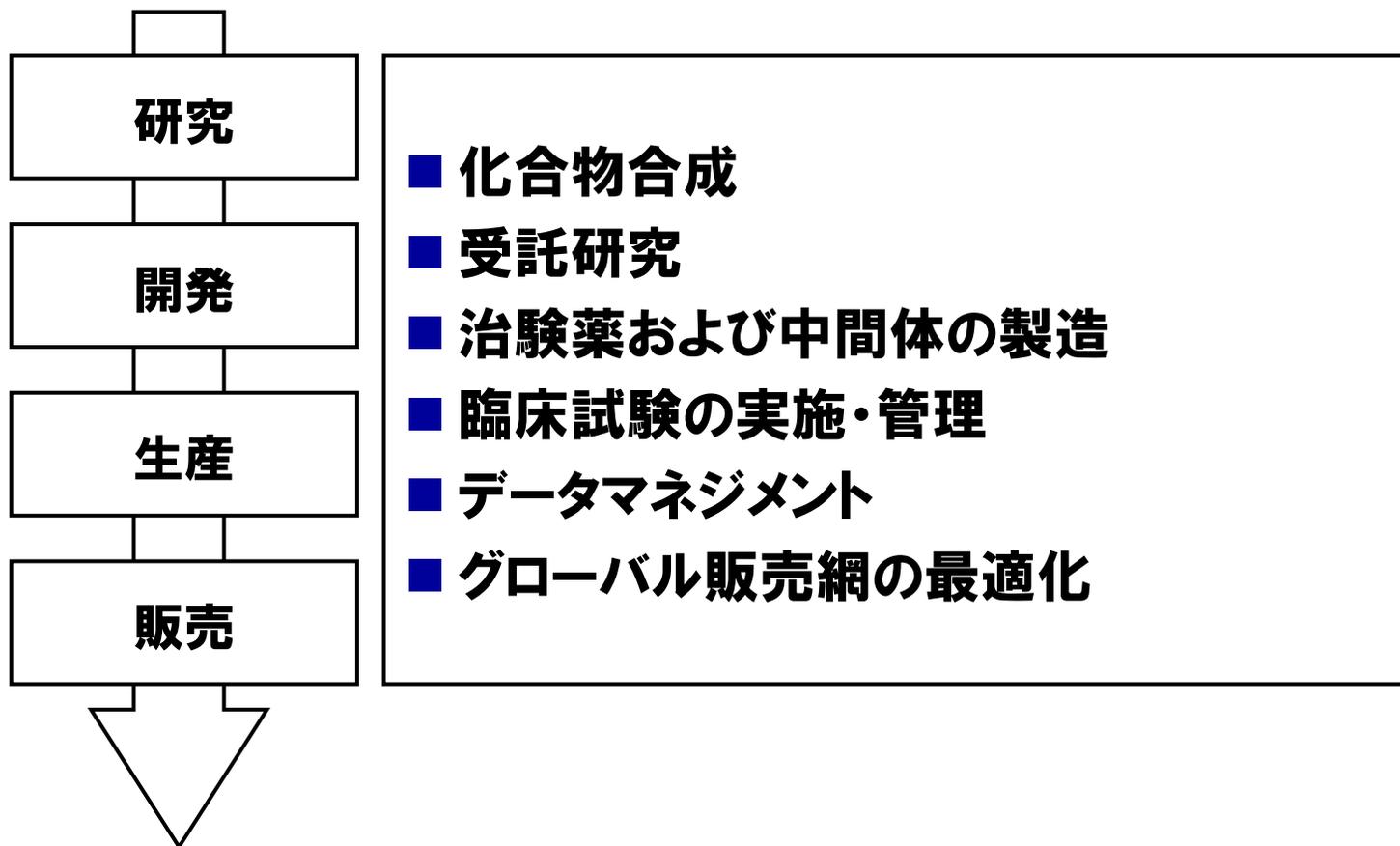
現状21ヶ国



- インドでは最大級の製薬企業
- 東欧、アジア等で営業網を拡大
- アフリカ大陸の営業網はグローバル大手で最大規模

効率的なバリューチェーンの実現

- 研究(上流)から販売(下流)まで高効率のバリューチェーンを実現することにより、革新的医薬品の創出を加速



アジェンダ

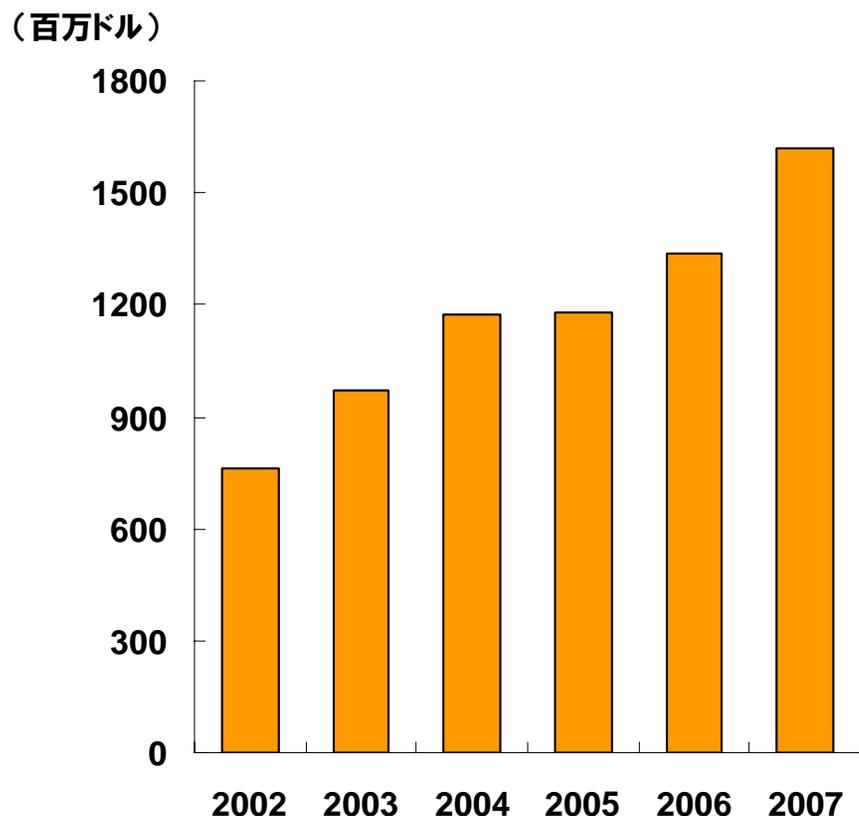
1. 本件の意義
2. Ranbaxyの概要
3. 財務面への影響及び取引ストラクチャー
4. まとめ

Ranbaxyの概要

- 1961年設立、1973年ボンベイ証券取引所上場
- 2007年度業績
 - 連結売上高:743億ルピー(約1,858億円*)
 - 連結税引後利益:79億ルピー(約198億円*)
- グローバル49ヶ国に拠点
- インド最大の製薬企業**
- 代表者:Mr. Malvinder Mohan Singh***, CEO and Managing Director
- 後発医薬品ビジネスが主体
- 従業員数:約12,000名 (うち研究開発1,400名)
- 拠点:
 - 本社:インド共和国 ニューデリー市
 - 製造
 - 原薬:インド国内6拠点
 - 製剤:インド国内6拠点、海外13拠点
 - 研究開発:インド ハリヤナ州 グルガオン

過去5年、CAGR*16.2%の高成長を実現

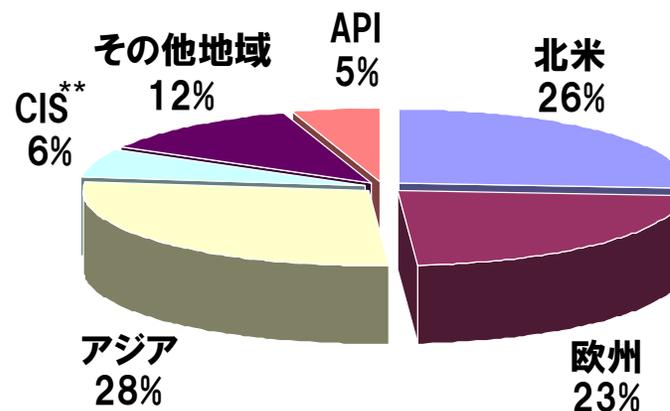
連結売上高推移(2002～2007年度)



■ 2008年度ガイダンス

- 売上高 18%～20%増
- 税引後利益 20%～25%増

地域別売上構成(2007年度)



(出所)Ranbaxy

*CAGR: 年平均成長率

**CIS: Commonwealth of Independent States(Armenia, Azerbaijan, Belarus, Georgia, Kazakhstan, Kyrgyzstan, Moldova, Russia, Tajikistan, Ukraine, Uzbekistan)

グローバル49ヶ国に営業拠点



米国における充実したパイプラインが成長を牽引

■ 申請中： 98

- うち、180日間の独占販売期間を得ることができるFirst To File (FTF) のステータスにあることを見込んでいるANDA製品： 18

これらFTF品目に対応する先発品メーカー売上規模
270億ドル
(2007年)

- 先発品メーカーとの和解により、先発品の特許期間あるいは独占期間満了以前に、Ranbaxyが一定期間の後発医薬品の独占販売を予定している主な品目：

- スマトリプタン ➤ タムスロシン
- バラシクロビル ➤ エソメプラゾール

これらFTF品目に対応する先発品メーカー売上規模
80億ドル
(2007年)

研究開発の強化

- 充実した研究開発施設
 - 研究開発要員数1,400名、うちPhD 約300名
 - 知的財産と各国の規制に精通
-
- 創薬研究に従事する人数: 300名以上
 - 注力している領域・疾病: 感染症、マラリア、代謝性疾患、泌尿器、呼吸器
 - 研究開発提携
 - GSK、Merckと共同研究
 - 4つのDDS基盤技術



R&D I



R&D II



R&D III



R&D IV

対売上高
研究開発費率
6.5% - 7.0%

8,500万ドル

~1億ドル

2006

2007

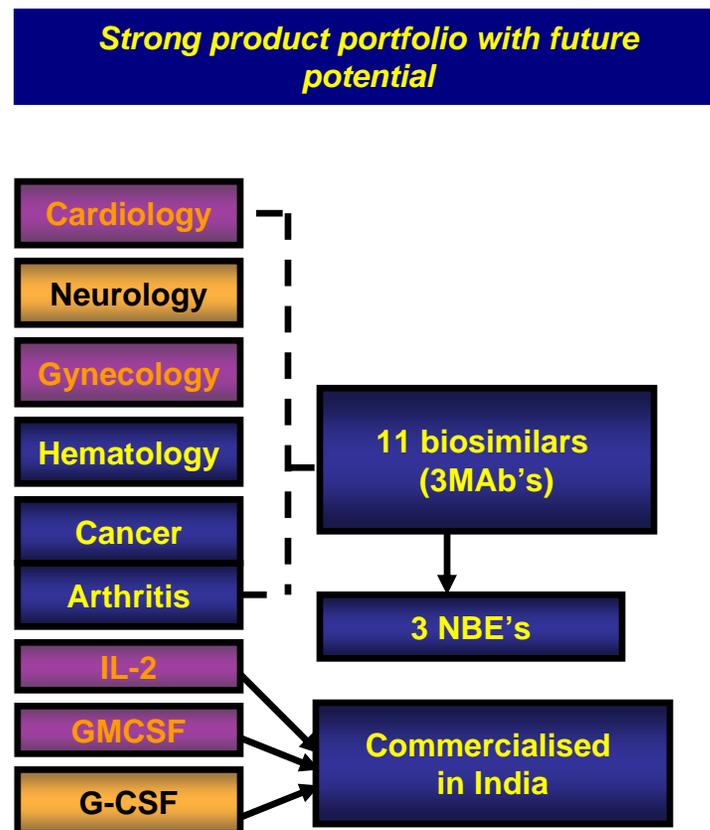
Zenotech

■ 概要

- ◆ 2003年、インドハイデラバードに設立
- ◆ 従業員数220名(うち研究開発員数50名)
- ◆ 研究所: 2ヶ所 - ハイデラバード(インド) 及びニュージャージー州プリンストン(米国)
- ◆ 製造拠点: 2ヶ所
- ◆ バイオシミラー、癌・注射剤ジェネリックに特化
- ◆ RanbaxyはZenotech株式の約47%を保有

■ 取引概要

- ◆ 第一三共はZenotech株式の20%(上限)を公開買付けにより取得予定。
- ◆ 20%株式取得時の必要資金は約21億円となる見込み。



アジェンダ

1. 本件の意義
2. Ranbaxyの概要
3. 財務面への影響及び取引ストラクチャー
4. まとめ

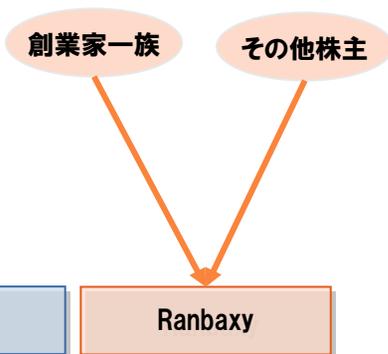
財務面への影響

- Ranbaxyの株式取得資金は、保有する手元資金および借入により調達予定
- 2008年度業績への影響は、取得総額および会計処理が確定後改めて開示予定
 - 現時点での試算では、のれん償却前のEPSは2009年度よりプラスに寄与、のれん償却後では2010年度よりプラスに寄与
 - 現時点での試算では、営業利益には、のれん償却前後ともに2009年度からプラスに寄与
- 株主還元の方針に変更なし
 - 2007年度・2008年度通算で「総還元性向」100%以上を目標（2007年度実績：約85%）
 - DOE5%以上の早期達成
 - 安定的な増配
 - 機動的な自己株式取得

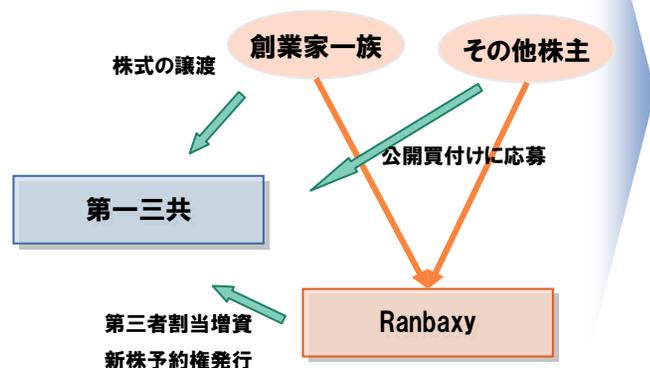
取引ストラクチャーの概要

- 当局からの承認取得後、以下の取引を実施
 - 創業家一族が保有する株式の取得
 - 第一三共はRanbaxyが発行する第三者割当増資および新株予約権の引受け
 - 公開買付けの実施
- 上記取引を実施後、過半数に満たない場合は新株予約権を行使し、Ranbaxy株式の50.1%以上の取得
- 本件は年度内に完了見込み(規制当局及びRanbaxy株主総会決議による承認取得)
- Ranbaxyは引き続き上場を維持

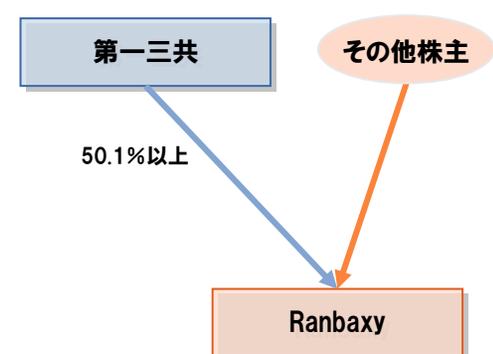
現状



本件の実施



本件の実施後



買収価格及びスケジュール

- 第一三共は創業家一族およびRanbaxyと同社株式の過半数取得に関して合意
- 買収価格 1株当り737ルピー（下記①～④いずれも同額）
 - 発表日前日終値(6月10日)に対して31.4%のプレミアム
 - 取得総額は1,474億ルピー～1,980億ルピーとなる見込み
 - 日本円で3,685億円～4,950億円に相当*

【スケジュール】

| 取得の方法 | 株数 (百万株) | 金額 (十億ルピー) | 実行予定日 |
|-----------|-------------|---------------|-------------|
| ①創業家からの取引 | 130 | 96 | 2008年度Q2-Q3 |
| ②第三者割当増資 | 46 | 34 | 2008年度Q2-Q3 |
| ③公開買付 | 0～93 | 0～68 | 2008年度Q2-Q3 |
| ①～③計 | 176～269 | 130～198 | — |
| ④新株予約権 | 24 | 2～18 | 2008年度Q3-Q4 |

- Ranbaxy株主総会決議及び規制当局による承認及び取引条件の合意が本件成立の条件
- Ranbaxyは引き続き上場を維持

アジェンダ

1. 本件の意義
2. Ranbaxyの概要
3. 財務面への影響及び取引ストラクチャー
4. まとめ

Global Pharma Innovatorへの挑戦

Global

世界の主要地域に
自らが拠点を構えて、
自ら事業を
展開する企業

Pharma

経営資源を医薬品
事業に集中し、
革新的医薬品を
継続的に創出し、
提供する企業

Innovator

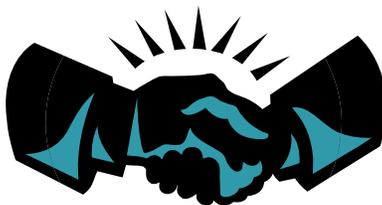
サイエンス・技術に
おけるイノベーションと
ビジネスモデルの
イノベーションを
実現する企業

複眼経営



Daiichi-Sankyo

Global Pharma Innovator



RANBAXY
LABORATORIES LIMITED

An Integrated, Research based,
International Pharmaceutical
Company

本資料に関するお問い合わせ先

第一三共株式会社
コーポレートコミュニケーション部

TEL: 03-6225-1126

FAX: 03-6225-1132

<ご注意>

このプレゼンテーション用資料は、第一三共によるRanbaxyに対する公開買付け等による株式の取得についての一般にご説明するためのものであり、Ranbaxyの株式を所有している投資者に対する売付け等の申込みの勧誘又は買付け等の申込みを目的として作成されたものではありません。

このプレゼンテーション用資料には、第一三共がRanbaxy株式を取得した場合にかかる将来の見通しについて、公表日現在における第一三共の経営陣の考え方に基づき記載されています。しかし実際の結果は多くの要因の影響を受けるため、記載された見通しから大きく乖離する可能性があります。